色彩環境論［5］

集会都市の色彩比較について。

事例ーバンクーバー・ビクトリア・ウィスラー・バンフ・カルガリー［1995年6月］

山　岸　政　雄

研究目的

本研究は石川県（社法・北陸経済調査会）より調査委託(1)を受けた研究成果の一部である。ここではカナダ諸都市の色彩を事例に集会都市（コンベンションシティー）の在り方を考察するものである。

集会都市の構造は、飽くことなく楽しく美しい演出と、ホスピタリテイー（歓待と親切）の充足度によって測られる。前者は会議やスポーツ、演劇、料理晩餐、ホテル宿泊の出来ごとであり、後者は来訪者の国旗を掲げるなどのもてなしの心意気である。

ところでこのような研究に焦点を当てる背景には、集会都市を標榜する歴史的伝統都市金沢が、国際的にもどのような快適値にあるかの自己診断への素材収集がある。例えば金沢が景観条例の指針としている色彩比較のデータは次の通りで、これから論じるカナダ各都市の色彩整序の規範との比較で有効性が高まるかもしれない。［金沢の伝統色］・5Y 4／14・5YR 3／2・5YR 4／4・5YR 5／2.

さらには、現代の集会都市機能は人間尺度を前提としながら、行動計画や選択のコンセプトが知的ゲームとも言えるほど魅力的に培われている。芸術的、工学的な配慮、あるいは自然への慈しみなど工夫と演出、創造の競争が繰り広げられている。もちろんのことながら社会科学としてのコンベンション都市分析も怠りない。本研究は以上のようなことを年頭に色彩観察とその分析を行った。

調査方法

☆調査対象：表題に記した5都市はカナダ西部ブリティッシュ・コロンビア州とアルバータ州にあって、いずれも集会都市として国際的に高い評価を受けている。調査は当該研究者が各都市のカラーサーベイと同時にコンベンションセンターに赴き、担当官に集会都市の構造と施策についてインタビューをし分析したものである。

☆色彩資料＝35ミリフィルムで市街地を撮影、色差計にて計測を行った。

色差計測値＝L*a*b* CIE 1976（日本電色／６90）

調査日＝1995年６月１日-12日現地

撮影条件＝快晴の昼間順光

撮影枚数＝約1000枚（カラーポジ）

計測資料数＝77枚(カラーポジ)

観察資料＝約900枚(カラーポジ)及びVTR記録、約３時間。

図表＝色環上の色差とマンセル値（色相・明度・彩度）頻度である。

事例都市

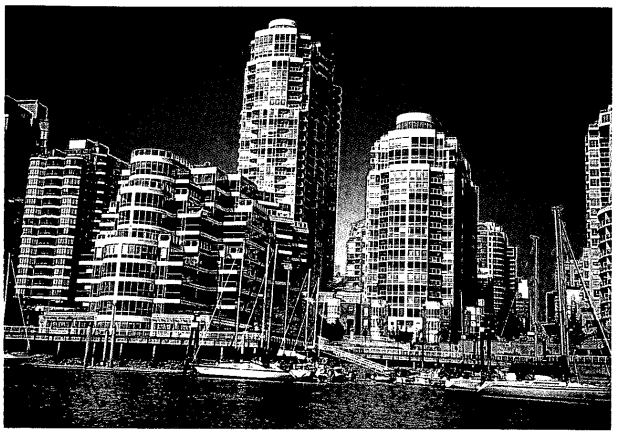
VANCOUVER（43万人／グレーター140万人）

バンクーバー市のコンベンション都市形成にかける意気込みは並々ならぬものである。その理由は森林業で栄えたこの都市も、緑の環境保全と代替資源の参入で次なる活力源を集会都市に求める事となったからである。セイモアの山並みを遠望し、穏やかなバラード入江に面した美しい風景は、気品のある爽やかな集会都市形成の切り札でもある。

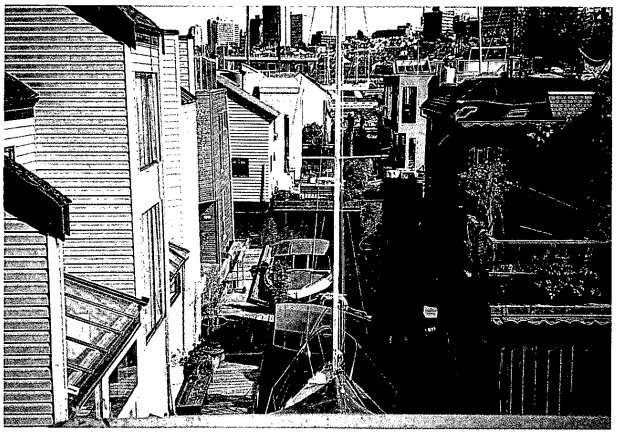
VANCOUVER TRADE & CONVENTION CENTER、ROBSON SQUARE CONFFERENCE CENTER 及び、東京ドームを凌ぐ B.C. PLACE STADIUM など集客のハードとソフトは完璧で、その象徴語 "Yes, we can" は有名。

基調色はベージュ、シナモン、キャメル、ベンガラ色などブラウン系のビルや住宅と、アクア、アイスグリーンのオフィスやコンドミニアムの超高層ビル群で鏡映色が多い。支援色は豊かな緑樹で、貿易・国際会議場の純白な幕構造が象徴色となっている。

アクセントカラーは別名ルージュのシグナルレッド。

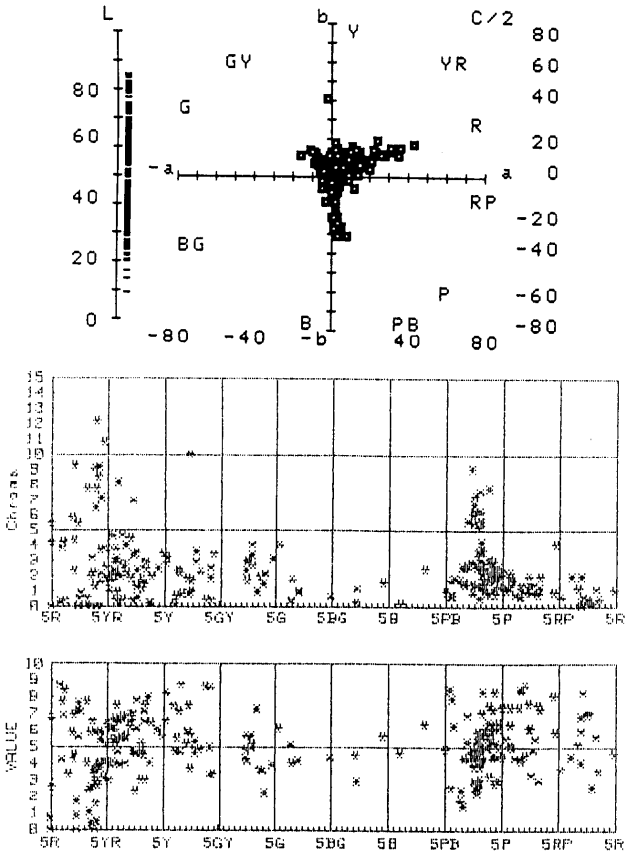


VANCOUVER



VANCOUVER

VANCOUVER/95



VICTORIA（B.C.州都、周辺含み27万人）

19世紀中頃イギリス人によって毛皮交易の港として開かれ保養地としても名高い。

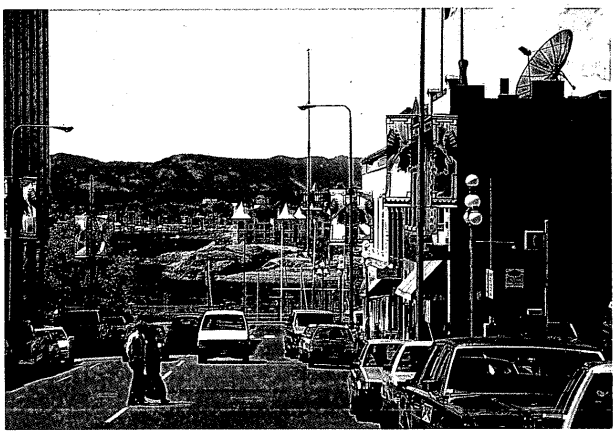
美的環境は古きロマネスク様式の州議事堂をシンボルにインナー・ハーバーを囲んで格調がある。会議施設は古風なエンプレス・ホテルに隣接したVICTORIA CONFERENCE CENTERで400席の劇場や大展示ホール、15の会議室などが完備している。町そのものがコンベンションセンターの観がする。

基調色は、建物はシナモン、ガーネット、セピアなど濃いめのブラウンが主である。支援色はグラスグリーンで、アクセントカラーはシグナルレッドのダブルデッカーコーチ。移動景観色である。ここでは夜景も大切にされ、3000個の電球で縁取られた州議事堂のライトスケープは〝鳥かご〟の愛称で親しまれ、アフターコンベヨンの資産である。

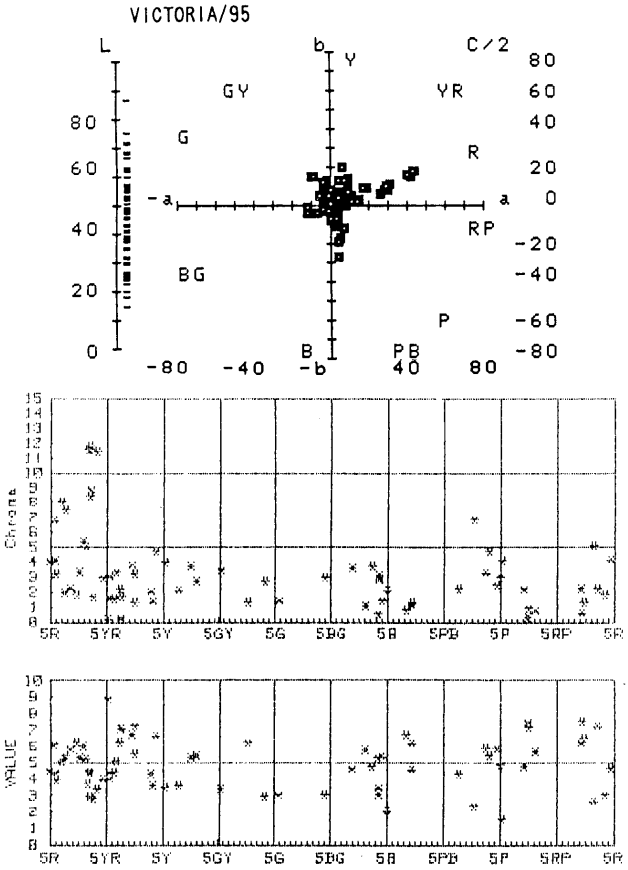
VICTORIA

WHISTLER（定住は僅か）

バンクーバーの北120キロにあるスキー場で名高い山岳リゾート・ビレッジ。夏スキー、ゴルフ、急流下り、マウンテンバイク、乗馬、モーツアルト音楽祭など歓待ソフトは多彩である。WHISTLER CONFERENCE CENTERはくつろぎのスタイルを大切にして



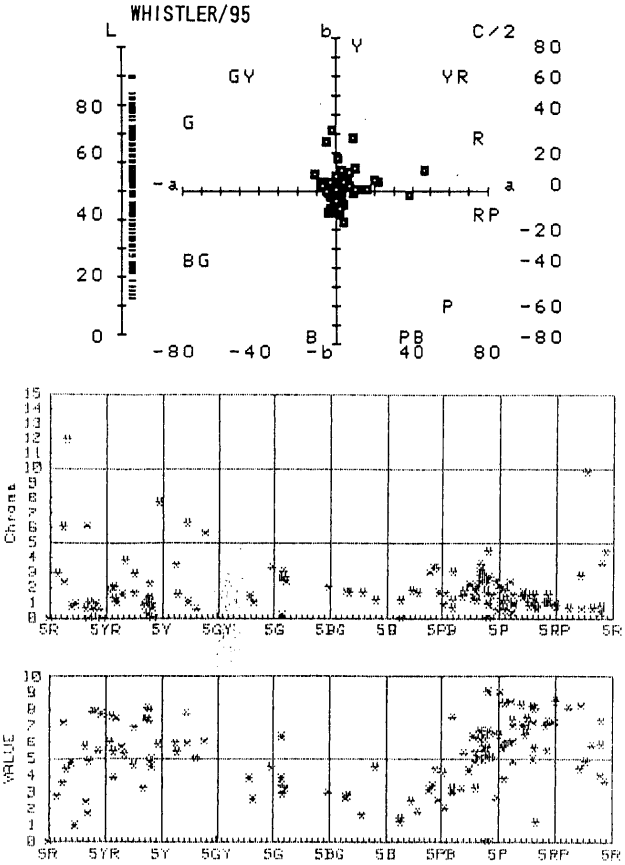
VICTORIA

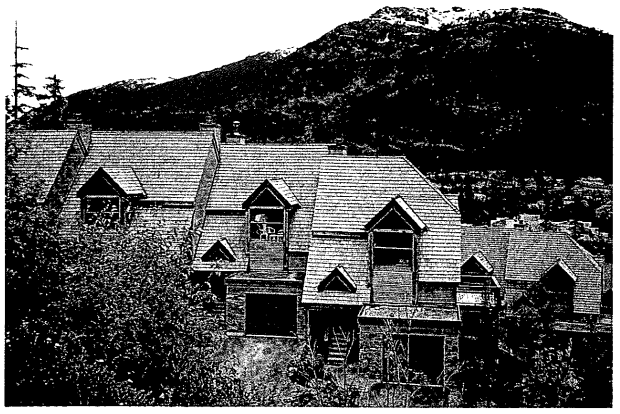


いる。旅行社も入り長期滞在の快適性に最大の配慮がなされている。色彩計画は山岳保養地の財産である。コンベンション計画は、自然と調和した町の環境や景観の管理と一体化してこそ機能することを重要視している。そのための方策として、町の造園課は徹底したイメージ管理を行っていた。

基調色は通年の自然に馴染むように、アンバー、チェストナットブラウン、ベージュ、アイボー系に統一されていて、支援色は雪景色となじみの良いアイスブルーのリフトなど気配りの色が多い。軒先の花籠はアクセントカラー。サインボードにも色彩の快適さをみた。

WHISTLER





WHISTLER

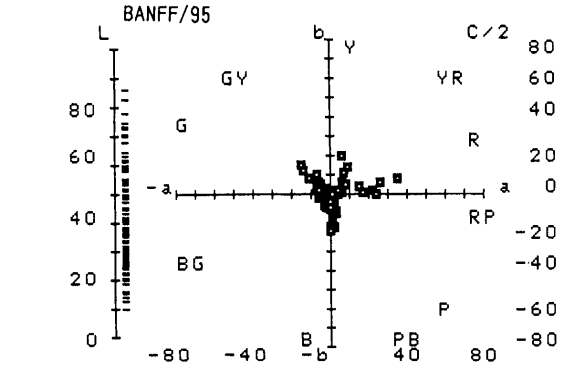
BANFF（4000人）

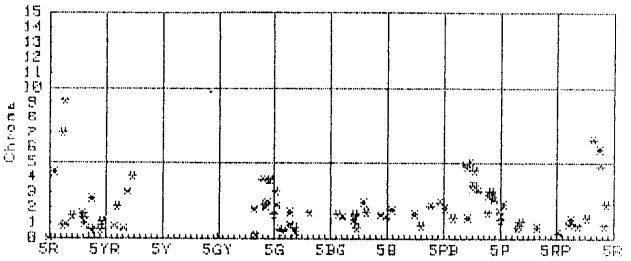
約100年程以前にカナダ太平洋鉄道によって開発された世界的なリゾート都市。夏の観光客は1万人を超える。カナディアンロッキー、バンフ国立公園の中心地で、集会施設はバンフスプリングスホテル付設と、THE BANFF CENTRE FOR CONFERENCES がある。このセンターは通称〝バンフセンター〟で知られている。大学院級の生涯教育研修センターである〝センターフォーアーツ〟と会議施設から成る。大学卒業後さらに映像、ダンス、演劇、工芸などのプロをめざす人たちの生涯教育研修センターでレベルの高さを誇っている。1933年アルバータ大学夏季芸術学校として創立、歴史も古い。

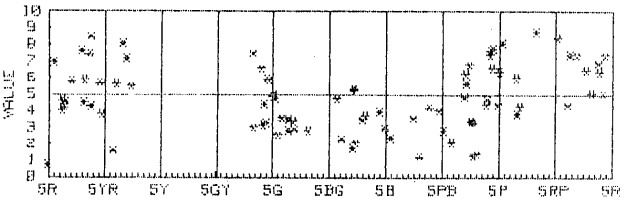
基調色は低彩度のチェストナットブラウンと、夏の自然に溶け込む暗い灰みがかったスレートグリーンである。その合間に青磁セラドンやアイスグリーンが見え隠れして支援色となっている。

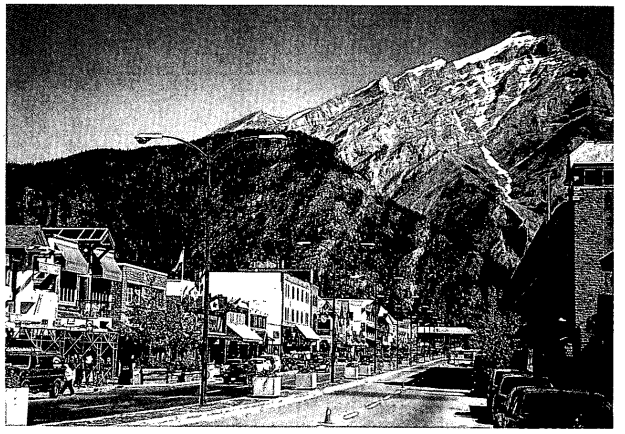
アクセントカラーはゼラニウムの明るい赤。

BANFF









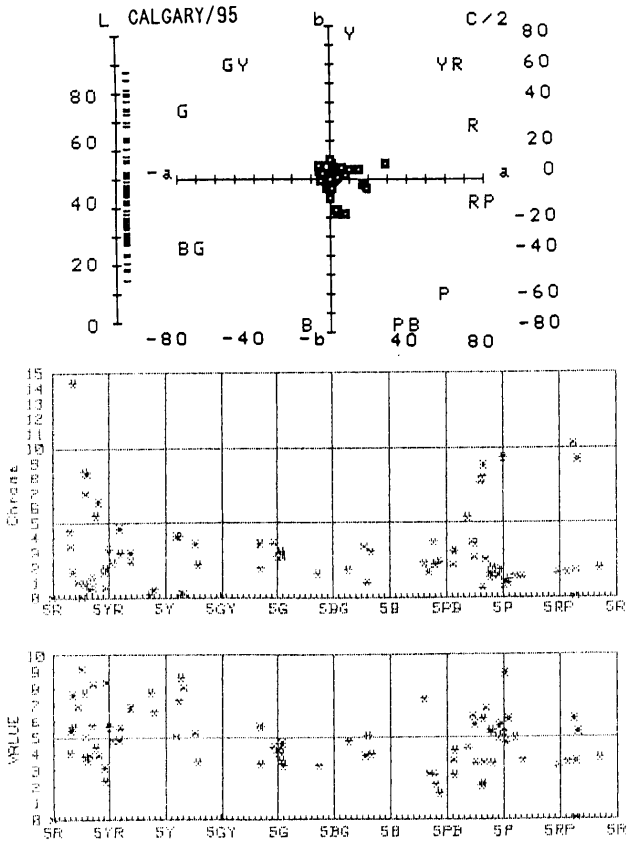
BANFF

CALGARY（70万人）

アルバータ州、カナディアンロッキーの入口に位置するカウボーイと石油の町で、1988年冬期オリン

ピックを開催した。CALGARY CONVENTION CENTERとCALGARY CENTER FOR PERFORMING ARTSの2大施設はフル稼働している。ALBERTA COLLEGE OF ART GALLERYも現代芸術のコンベンション機能を発揮している。会議都市としても破竹の勢いがあって、21世紀万博では名古屋と競い合うようだ。

基調色はシナモン、ベージュ、トパーズとパステルブルーからセルリアンブルーにいたる色がモザイク状に連なっている。冬季の交通アクセスとしてビルの2階で接続されている渡り廊下「スカイウオーク」はガラス張りで来訪者を心地よく迎えている。アクセントカラーはオペラや、エメラルドグリーンのフラッグと歩道のコバルトブルーの車止めおよび照明柱である。



GALGARY

GALGARY

結　果

調査をした集会都市はいずれも色彩環境の影響を認識し、その保全、保護、保存、修復、識別、再生、提示、研究において基準が明快であった。改めてこの流れをいくらか振り返り調査行の意義と結果を正してみたいと思う。

第１の結果は、コンベンション都市における屋外広告物、サインと色彩美観保全の施策効果の大きさであった。本来この研究の目的が、金沢市に待望されている国際会議場またはコンベンションセンターの設置を念頭においていることは冒頭にも伏線的にふれておいたが重ねて色彩保全の大切さを知らされた。幸い1996年（平成８年）４月に施行される金沢市の「中核市」への移行時に、屋外広告物条例の制定権が移管される。都市美や景観再生にとって千載一隅の機会であろう。

この事の重要性は以下の歴史を振り返ると一層明

らかとなる。わが国における屋外広告物つまり看板やサインの誘導は、明治15年（1882年）の「街路取締規則」に始まる。明治社会の近代化は当然のことながら都市化を招き、美観風致・公序良俗を損なうことが危惧されたからである。風致つまり都会人の目を楽しませてくれる森林、河川など自然界の美しさを譲るためにも必要な規則令であった。その後第２次大戦後の新憲法により多くの法改正が行われ、昭和24年「屋外広告物法」が制定され権限は国から県へ委譲された。また昭和39年には各自治体の基準のばらつきを調整するため「屋外広告物標準条例」が出された。（建設省）しかし広告媒体の巨大化と氾濫する屋外広告物と風致維持の不調和は環境問題の様相を呈するに至り、平成６年12月、屋外広告物標準条例（案）は改正された。ここでは規制強化や緩和が各都市の実態に即して出来るように改正されている。したがって中核市移行は政令都市に準じて独自の美観施策を織り込んだ広告物条例を制定施行することが可能になる。合意形成の方法が注目されるゆえんである。このことは1977年、日本の環境問題の稚拙さ、つまりアメニティーの無さをOECD（経済協力開発機構）に指摘されて以来の環境施策と言ってもよい。過激な色彩や無秩序な看板が乱立する今日の日本の都市は、意味不明の繁栄の謗りをまぬがれないばかりでなく、汚れと乱雑さは都市の衰弱や崩壊の危機を招くことは歴史の事実である。そして屋外広告物、サインの在り方が鋭く問われている事実をカナダ各都市の色彩調査のデータから裏付けることが出来た。

第２は色彩を伴う景観ホスピタリティーの重要性である。集会都市形成の基本精神は歓待や親切、もてなしのホスピタリティーにあるが、アフターコンベンションのみならず都市景観のような見えるものとの対話にも、近年大きな関心がもたれている。調査でも美的環境が集会都市の生命線であることがデータ解析で共通に認められた。例えばウイスラースキーリゾートにおけるリフトの色彩は、シーズンオフでも自然環境と共存し美しい人工自然を形成している。コンベンション都市の注意深いもてなし観と活性化に色彩が寄与している良い例である。まさに色彩情報によって繋がれたコンベンションホスピタリティーの可能性と都市施策が不即不離の関係にあることが証されていた。調査したそれぞれの都市の担当者が最も強調していたことも、美しい街にはリピーターが多いとの指摘であった。思えばカナダに限らず、イメージアビリティーのある都市には明快で美しい都市が多い。たとえば、グレイイッシュのパリ、霧の効果色に魅せられるサンフランシスコ、白いベオグラードやパンプキンのリスボンなども都市のコンベンションイメージをカラーで裏付けている。

この調査結果を現実のものと擦り合わせるためには次のことに留意することが必要である。

［１］集会都市には具体的なカラーイメージが不可欠である。また、どのような色彩が都市のイメージにふさわしいかについては、都市科学（人交・社会・自然）の総合的な視点からも問われねばならない。

［２］色彩景観は都市の大切な説明情報であることを理解し景観条例などの施策に正確に反映させる。

［３］コモンセンス（良識、常識）に支えられた色彩景観は、市民の共有財産であることに誇りを持つような促進策をとる。

以上。

（協力）
・B.C.PLACE STADIUM
・ROBSON SQUARE CONFERENCE CENTER
・VANCOUVER TRADE & CONVENTION CENTER
・VICTORIA CONFERENCE CENTER
・WHISTLER CONFERENCE CENTER
・THE BANFF CENTRE FOR CONFERENCES
・CALGARY CONVENTION CENTRE
・CALGARY CENTRE FOR PERFORMING ARTS

・JACOB & JUNKO FRIESEN
・ROY U. YEDA

註

(1)「金沢におけるコンベンションの在り方について」
山岸　政雄、水野　一郎

（平成７年10月20日受理）